

今回は、①イヤイヤ期・癩癩（かんしゃく）②おうちでのお手伝いのことについて、保護者の方からよくご質問を伺うのでお話をしたいと思います。

① ～“あなたは どうしたい？”一人の人としての関わりを～

イヤイヤ期といわれる時期は、実は子どもが“自分がひとりの人間として認められることを期待し、望んでいる時期”です。子どもの「癩癩（かんしゃく）」といわれる泣いて訴えることが多いお子さんも、大人の関わりで機嫌よく過ごせるようになるかもしれません。

“自分に関係することを決めるときは自分の意見をきいてほしいな”と願っています

「どちらがいい？（できれば2つの選択肢）」「あなたは どうしたい？」という選択することができる言葉は、子どもが自分は一人の人間として認められる存在なのだと感じる貴重な機会となり、自我の成長の為の大きなお手伝いになります。

※自我…「私」という感覚・行動の主体が自分であるという感覚・他人と区別できる自分

声かけのポイント

例) 出かける時間や寝る時間なのに遊びが終わらない…

「もう終わりにして！」→「(時計を見せて) どこまでする？」

※厳しく叱ることが躰という考えがありますが…命令や怒鳴ることは子どもが委縮して、自己否定や自信をなくしてしまうことに繋がるので気をつけたいですね。

違う視点から…

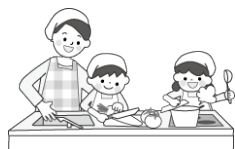
なかなか話を聞いてくれません…というときは、一度思うようにさせてみるのも。“寝るのが遅くなり朝眠たい、やりたいことをする時間がなくなった”等、失敗を経験すると次にどうしたらいいか“自分で考える”きっかけになるかもしれません。

② ～おうちでのお手伝いの本当の意味～

保育園に通う年齢の子たちは、なんでも大人のまねや、大人と同じようにやりたがりますね。おうちでも、是非たくさんのお手伝いをしてもらいましょう！それは、子どもの体や感覚の発達のために役立つだけでなく、お手伝いをして感謝される経験をすることは、やがて子どもに「私はできる。役立つ人間だ」という信念を与えることに繋がります。

この信念こそ、“困難にぶつかったときに自分を信じ乗り越える糧となり、人生を支え、切り開くための大きな武器”になります。

このゆるぎない信念を与えることは、“最高で最大の贈り物”ですね。



2歳児の園からのクリスマスプレゼントは、子ども包丁です。興味を持った時に繰り返し使うことで、上手くつかえるようになっていきます。

引用 「いのちのひみつ」 シルバーナ Q モンターナ 著
引用 学研「おとなが子どもにできること」 松浦公紀 監修